

令和元年6月6日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K09244

研究課題名(和文) 一般住民における心理社会的因子・家族機能・社会脳と認知症の関連：久山町研究

研究課題名(英文) The association of psychosocial factors, family functions and social brain with dementia in a general population: the Hisayama study.

研究代表者

柴田 舞欧 (Shibata, Mao)

九州大学・医学研究院・助教

研究者番号：20734982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：社会的接触の欠如に起因する社会的孤独感と、情緒的愛着の不足に起因する情緒的孤独感を分けて、認知症発症との関連を縦断的に検討した。平成24年に福岡県久山町の認知症調査を受診した65歳以上の住民で、認知症がなくかつ孤独感の評価を行った対象者のうち5年後の平成29年に認知症調査を受けた952人を解析対象とした。情緒的孤独感を有する人が認知症を発症するオッズ比(性年齢調整後)は、2.08($p < 0.01$)と無い人に比べ有意に高く、多変量調整後もこの有意な関連を認めた。地域高齢者において情緒的孤独感は認知症発症リスクに有意に関連していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

孤独感と認知症の関係を示唆する報告が散見されているが、地域高齢者において社会的接触の欠如に起因する社会的孤独感と、情緒的愛着の不足に起因する情緒的孤独感を分けて、認知症発症との関連を縦断的に検討した報告は知る限りなく、本研究が初めての報告である。認知症の予防や認知症高齢者のケアにおいて、情緒的孤独感を考慮することの重要性が示唆された。また、本研究で収集した65歳以上の高齢者およびその40歳以上の同居家族を含む2684名の心理社会的因子と認知症発症の関連を解析することで、認知症予防および認知症周辺症状の進行抑制に有効な心理社会的因子の同定に寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：We investigated the prospective association between social and emotional loneliness, due to lack of social contact and emotional attachment respectively, and incident dementia. In total, 952 Japanese community-residents aged 65 and older without dementia were followed prospectively from when they evaluated their loneliness in 2012 to 2017. The age- and sex-adjusted odds ratio for dementia with emotional loneliness was significantly higher in subjects with emotional loneliness than those without (2.08 [$p < 0.01$]). This significant association was observed even after multivariate adjustment. Emotional loneliness was significantly associated with the risk of developing dementia in a community-based elderly.

研究分野：心身医学

キーワード：認知症 孤独感 高齢者 疫学研究 地域一般住民

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国では、高齢人口の急速な増加に伴い認知症の患者数が飛躍的に増加し、医学的・社会的に大きな問題となっている。しかしながら、認知症の発症や予後、行動・心理症状に関連する可能性のある心理社会的要因や家族機能および社会脳機能のメカニズムについては報告が少なく明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究では、家族単位で調査が行え、かつ、日本人の代表的サンプルと考えられる久山町地域一般住民の65歳以上の高齢者およびその同居家族約2700人を対象に、心理社会的因子、家族機能を調査し、認知症の発症、予後、行動・心理症状への関連を縦断的に検討する。また、頭部MRI画像を用いて、社会脳機能部位の脳容積を検討し、上記関連のメカニズムを解明する。

3. 研究の方法

平成24年度までに収集したベースラインデータ(心理社会的因子、認知症、脳画像)を整備する。その5年後にあたる平成29年度に久山町地域一般住民の65歳以上の高齢者とその同居家族約2700人を対象に心理社会的因子(家族機能、抑うつ)、身体的因子(睡眠障害、慢性疼痛)、QOLおよび医療経済的損失を評価する質問紙調査を行う。同時に65歳以上の高齢者約1400人に対して認知症調査、頭部MRI検査を行う。平成24年度および平成29年度のデータを用いて縦断的解析を行う。なお、久山町研究で平成29年度に認知症調査、頭部MRI検査の実施を計画しており、本研究ではそこで得られた頭部MRI検査画像を用いてVBM解析を行う。

4. 研究成果

孤独感と認知症の関係を示唆する報告が散見される。しかし、地域高齢者において社会的接触の欠如に起因する社会的孤独感と、情緒的愛着の不足に起因する情緒的孤独感を分けて、認知症発症との関連を縦断的に検討した報告は知る限りない。平成24年に福岡県久山町の認知症調査を受診した65歳以上の住民で、認知症がなくかつ孤独感の評価を行った対象者のうち5年後の平成29年に認知症調査を受けた952人を解析対象とした。孤独感は6-Item De Jong Gierveld Loneliness Scaleを用いて評価した。認知症の診断にはDSM-Rを用いた。オッズ比の算出にはロジスティック回帰分析を使用した。5年間で952名中86名(9.03%)が認知症を発症した。社会的孤独感を有する人では、無い人に比べ認知症発症のオッズ比(性年齢調整後)が1.75($p < 0.05$)と有意に高かった。しかし、生活習慣、現病歴、既往歴等の身体的因子、婚姻状況や独居の有無、親族友人との交流頻度等の社会的因子、うつ病の有無で多変量調整を行ったところ、有意な関係は消失した。一方、情緒的孤独感を有する人が認知症を発症するオッズ比(性年齢調整後)は、2.08($p < 0.01$)と無い人に比べ有意に高く、多変量調整後もこの有意な関連を認めた。地域高齢者において孤独感は認知症発症リスクに有意に関連していた。認知症の予防や認知症高齢者のケアにおいて、孤独感を考慮することの重要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1件)

1. Shibata M, Ninomiya T, Anno K, Kawata H, Iwaki R, Sawamoto R, Kubo C, Kiyohara Y, Sudo N, Hosoi M: Perceived inadequate care and excessive overprotection during childhood are associated with greater risk of sleep disturbance in adulthood: the Hisayama Study. BMC Psychiatry 16 (215), 2016.

〔学会発表〕(計 5件)

1. Shibata M, Hosoi M, Ohara T, Hirabayashi N, Anno K, Yoshida D, Kanba S, Sudo N, Ninomiya T: The association between progression of dementia and loneliness in an older general population from the viewpoint of social and emotional aspects: the Hisayama Study. The 18th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine. Seoul, Korea, 2018.

2. 柴田舞欧, 二宮利治, 安野広三, 河田浩, 岩城理恵, 富岡光直, 久保千春, 須藤信行, 細井昌子: ケアが少なく過干渉な被養育体験は成人後の慢性疼痛の重症度に関連する: 症例対照研究. 第46回日本慢性疼痛学会. 2017年

3. 柴田舞欧, 小原知之, 細井昌子, 吉田大悟, 平林直樹, 安野広三, 須藤信行, 神庭重信, 二宮利治: 地域高齢者における認知症と孤独感の関連: 久山町研究. 日本臨床疫学会第1回年次学術大会. 2017年

4. 柴田舞欧, 細井昌子, 平林直樹, 安野広三, 須藤信行, 清原 裕, 二宮利治: 地域高齢者における認知症と孤独感の関連: 久山町研究. 第57回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2016年

5. 柴田舞欧, 細井昌子, 安野広三, 河田 浩, 岩城理恵, 澤本良子, 久保千春, 須藤信行, 清原 裕, 二宮利治: 幼少期の被養育体験は成人後の睡眠障害に関連する: 久山町研究. 第 23 回日本未病システム学会学術総会. 2016 年.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

久山町研究 <http://www.hisayama.med.kyushu-u.ac.jp/research/disease10.html>

衛生・公衆衛生学分野 <http://www.eph.med.kyushu-u.ac.jp/result/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 二宮 利治

ローマ字氏名: NINOMIYA, toshiharu

所属研究機関名: 九州大学

部局名: 医学研究院

職名: 教授

研究者番号(8桁): 30571765

研究分担者氏名: 細井 昌子

ローマ字氏名: HOSOI, masako

所属研究機関名: 九州大学

部局名: 大学病院

職名: 講師

研究者番号(8桁): 80380400

研究分担者氏名: 小原 知之

ローマ字氏名: OHARA, tomoyuki

所属研究機関名: 九州大学

部局名: 医学研究院

職名: 教授

研究者番号(8桁): 20623630

(2)研究協力者

研究協力者氏名：平林 直樹

ローマ字氏名：HIRABAYASHI, naoki

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。